

「開門調査」から

“有明海の未来”が見えるか

～有明海問題を地域の問題として考えよう～



日時 平成 26年 8月30日(土) 13:30 ~16:00

場所 ほほえみ館〈佐賀市保健福祉会館〉
4階 視聴覚室
佐賀市兵庫北三丁目8番36号

**入場
無料**

【開催趣旨】

皆さん一緒に、“有明海問題”を自分たちの問題として考えてみませんか。

有明海再生機構は、有明海問題＝開門問題となって司法の場で関係者が争い混迷化している中で、昨年の12月に「“有明海の未来”に繋げる緊急提言」をまとめ、この問題を司法だけに委ねるのではなく、地域の問題として話し合いで解決しようということを提案しました。

このシンポジウムの開催趣旨は有明海問題を地域の問題として考えようという提案で、その第1弾として『「開門調査」から“有明海の未来”が見えるか』というテーマで、有明海再生に向けての対応としてこのまま「開門調査」だけに固守しても“有明海の未来”のシナリオが描けるのかを問いかけていきます。

“有明海問題”といってもよくわからないという話をよく聞きます。誰もが裁判ではこの問題は解決できないことは分かっていても、ただただ傍観しているだけです。

しかし先般、間接強制による制裁金が払われるようになり、なぜ国民の税金が使われなければならないのか、疑問と同時に憤りを覚えたのではないのでしょうか。そして、益々この問題の本質がわからなくなったのではないのでしょうか。

このシンポジウムではこのような疑問にも出来るだけ分かりやすく答え、これまで得られてきた科学的知見や関係者の今の構図をもとに問題点を浮き彫りにしながら、地域の問題として有明海問題を解決に向けてどのような方向付けをしていったらよいか考えていきます。キーワードは、「有明海の未来」「地域の問題」「合意形成」「科学の社会貢献」「税金」です。



プログラム

■話題提供

「諫早湾干拓事業の潮受堤防の排水門の開門調査に係る環境影響評価書について」

・九州農政局整備部 次長 : 清野 哲生

「科学は有明海問題にどのように向き合うべきか」

・九州大学 名誉教授 : 楠田 哲也

■ディスカッション

●コーディネイター

・有明海再生機構 顧問 : 川上 義幸

●討議参加者

・九州大学 名誉教授 : 小松 利光

・佐賀大学 准教授 : 速水 祐一

・九州大学 助教 : 田井 明

・東京海洋大学大学院 准教授 : 片野 俊也

■主催 NPO法人有明海再生機構

佐賀市城内一丁目5番14号 電話番号：0952-26-7050

HP：http://www.npo-ariake.jp/ mail：npo-ariake@ceres.ocn.ne.jp

